

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
66	川崎市立南原小学校	平井 育子

学校教育目標	今年度の重点目標
夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く 「人間性豊かな南原の子」の育成	みなみはらPRIDEの醸成・みなみはらBRANDの創出 ・学びに向かう力の育成【知】 ・豊かな心の醸成【徳】 ・健やかな心と身体の育成【体】 ・安心安全な学校づくり(含、働き方仕事の進め方改革) ・地域とともに歩む開かれた学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学びに向かう力の育成【知】 ■自ら学びに向かい、他者との学びを通して、考えを深める子の育成 ■学び合う集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の見方・考え方を生かした「主体的対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点からの授業改善 見通しと振り返りを大切にした主体的な学びの実現(自己調整できる能力の育成) 知識・技能の獲得、自己肯定感の向上をめざすための、一人ひとりに対するきめ細やかな指導の充実 かわさきGIGAスクール構想実現(個別最適な学習環境の整備)への注力 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善については協働的な学び(学び合い)を中心に据えた授業過程へと変容しつつある。また児童の振り返りをもとにした授業設計を工夫するようになった。特に「総合的な学習の時間」については、情報収集&発表型から課題解決型・探究型に授業スタイルに転換しつつある。 知識・技能の獲得について一人ひとりの状況・習熟度を捉えながら、不十分な点については全教職員の協力体制による個別指導の工夫を図ることができた。 校内研究では国語科に焦点をあてて授業力向上に取り組んできたが、更に教科の見方・考え方を働かせられるような、質の高い教育をめざす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、一層の校内研究の充実を図る。児童の学びのデザインだけでなく、各教科の見方・考え方に關する理解を深め、一層の授業力向上をめざす。 本校がめざす児童像を明確にし、そのためのカリキュラムマネジメントを一層進め、児童が問いをもち、自分事として学びに向かい、生きて働く力を育てることをめざす。児童それぞれが自分の人生の主演であり、それぞれがキャリアを積んでいるということを教職員も意識しながら教育活動を展開させていきたい。併せて家庭学習の在り方・評価の在り方等を見直すなどして、自律する学びとなるよう進める。
2 豊かな心の醸成【徳】 ■自己や他者を大切に思い、協働できる子の育成 ■認め合う集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 規律意識の確立(「みんな」の場を大切にする意識についての徹底) かわさき共生*共育プログラムの活用 人権尊重教育・道徳教育の充実 キャリア在り方生き方教育の推進(キャリアノートの活用)・みなみはらPRIDEの醸成 児童会活動・たてわり活動や学級活動等の充実 心が動く体験活動(人や自然とのかかわり) 	<ul style="list-style-type: none"> 年度始めに学級目標の立て方・年度途中に学級目標の中間期での取組への活かし方についての研修を行った。結果、児童自身が「みんなで過ごす」の場を大切にしよう、お互いを大切にしようという意識で教育活動に取り組む姿が見られた。また委員会活動は児童発案のもと、「こんな学校にしたい」という願いのもとで立ち上げ、「児童主語の学校」となるよう大きく踏み出すことができた。 「他者を思いやる優しさが育っていますか」という設問に対して、保護者の96%が肯定的に回答し、児童の94%が肯定的に回答していたが、「そうは思わない」と回答している児童がいることに留意し、更に温かく穏やかな校風を大切に育んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、感動できる機会・実体験できる場の工夫や外部講師などとの出逢いを新規に設定しながら「豊かな心」の醸成を図ることができるよう尽力した。またたてわり活動の復活も行い、学級学年を越えた働きかけができるような体制を整えてきた。これらは継続していく。次年度は創立40周年式典の実施予定であることから、更に一人ひとりが活躍できる場を工夫していく。それぞれの有する多様性を引き出し、心が動く体験とともに個性が輝くように、そしてどの子も自信がもてるよう進めていく。
3 健やかな心と身体の育成【体】 ■健康でたくましい子の育成 ■支えあい、高めあう集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育の充実(防災・防犯訓練、交通安全教室、情報モラル教育等) 危機管理能力・リスク管理能力の向上 SOSの出し方・受け止め方教育の充実、教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は体育専科の配置があり、「身体を動かすことを楽しんでますか」という設問に対して10ポイントの上昇が見られ、90%以上の児童から肯定的な回答が得られた。今年度が体育館改修工事で体育館使用が不可であったが、児童主体で様々なスポーツイベント開催の日常化することができ、怪我の発生率も減少し、「健康安全に気をつけていますか」という設問についても95%が肯定的回答という結果であった。大きな手ごたえを感じている。心理的なたくましさ(レジリエンス)については今後の課題としたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援教育コーディネーターを中心に「SOSの出し方・受け止め方教育」については積極的に働きかけてきた。結果、保護者については94%が肯定的な回答を得ているものの、児童については前年度同様、肯定的な回答が77%に留まっている。次年度は支援コーディネーターのみならず学級担任・専科担当の児童理解力・児童対応力の向上をめざす必要がある。教育相談的な温かい声かけ、一人ひとりの個性を見出し、みなみはらPRIDEの醸成・レジリエンスの育成を目指していく。

4	<p>学びあう教職員集団</p> <p>■教職員の児童理解力・指導力の向上</p> <p>■働き方・仕事の進め方改革の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交換授業・専科等との協力指導・フロア会議の取組(情報の共有) ・危機管理能力・リスク管理能力の向上 ・校内研修・授業研究の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、児童活動部・教育課程(カリキュラムマネジメント)部・児童支援部の3部会を設置し協議をするなどして、児童理解力・指導力の向上を図ってきた。研修意欲・自己研鑽への意識等の高まりが見られている。学年を越えたフロア会議の設置や、専科指導担当の多面的な児童観察の情報に基づき、教育活動の進め方への助言などが活発に行われた。但し、まだ発展途上である。学びあう教職員集団として、めざす児童像を共有し、授業観察・児童観察をきめ細やかなものにし、一層高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単教に対しては副担任を配置するなどして、複数の眼で児童理解に努めるとともに、教職員自身が問いをもち、問題を意識をもって研修・研鑽を積むことや定期的な情報交換の場の設定などにより、GIGAスクール構想の実現・人権尊重教育の推進・危機管理能力やリスク管理能力の向上などの意識向上と教育力向上を図る。 ・「働き方・仕事の進め方改革」として業務や会議の精選については一定の成果が出ている。時間的制限のある中での教育の質の向上が今後の課題である
5	<p>地域に開かれた魅力ある学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みなみはらBRANDの創出と情報発信 ・学校評価の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信はミマモルメールと学校HPにより迅速な情報提供ができた。結果、95%の保護者が肯定的な回答をしていた。保護者からの声は折に触れオンラインアンケートにより集約し、教育活動に反映してきた。 ・「南原ならではの」教育となるように総合的な学習の時間や生活科のカリキュラムを整理し、みなみはらBRANDの創出の礎を築くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、創立40周年の記念すべき年になる。コロナ禍や地域住民の高齢化などの影響で地域との関わりが薄れてしまっている。副読本作成・記念誌作成・式典などを通して「これから改めて南原小学校をどうぞよろしくお願いします」と自己紹介するような気持ちで丁寧に関係を築き、地域にある公立小学校として、地域に開かれた魅力ある学校づくりとなるよう力を尽くしていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・南原小学校は小規模校であるため「その他大勢」として縮こまる子はいない。中学進学後も堂々とリーダーシップをとれる子に育っている。それがこの学校良さであり、伝統である。 ・授業の様子を見ると1年間を通して様相が大きく変容した。一斉指導で先生の話を聞くだけでなく、自分たちで学ぶ姿勢になって来たことは大いに評価できる。GIGA端末も当たり前のように活用している。GIGA端末で何かを「調べておしまい」の時代は終わった。これからの時代は調べたことをもとに「その先に何かがあるかを考える」時代になる。情報モラル教育やメディアコントロールを推進している点も素晴らしい。今後もそれらの点に留意しながら、更に一人一人の個性にあった教育、そして創造性を伸長するような方向で進めていってほしい。 ・食育として行われている献立総選挙は興味深い取組である。栄養のバランスだけでなく、旬・地産地消などに目を向けて、児童が学習で献立を立てているところも評価できる。 	<p>今年度はコミュニティ・スクール元年であった。次年度に控えている創立40周年にむけて「みなみはらPRIDEの醸成・みなみはらBRANDの創出」を重点目標に掲げ、学校運営を進めてきた。学校シンボルキャラクターの誕生・スローガンやシンボルマークなどの決定など、児童主体の活動が成果を結び、「みなみはらならではの」活動を可視化することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」については、協働的な学びを大切にしながら授業改善に努めてきた。更に質の高い教育をめざす必要がある。 ・「豊かな心」については、5年ぶりのたてわり活動の復活等、様々なヒト・モノ・コトとの出逢いを大切にしながら、児童の心を耕し、児童の視野を広げるきっかけをもつことができた。更に発展継続させていく。 ・「健やかな身体と心」については運動や安全への意識の高まりが見られた。心の健康やレジリエンスについては注力していく必要がある。 ・「地域とともに歩む開かれた学校づくり」については次年度の創立40周年に向けての準備期間であった。更に発展させていく所存である。